

令和6年度（2024年度）第1回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時 令和7年（2025年）2月13日（木）
午後3時00分開会～午後5時00分閉会

場 所 ニセコ町役場 多目的ホール

出席者 片山健也町長、山本契太副町長、
片岡辰三教育長、下田伸一教育長職務代理者、越湖明美委員、
巻礼子委員、千葉つむぎ委員
淵野総合教育課長、齊藤こども未来課長兼幼児センター長、
三橋学校給食センター長、荒川高校教育係長、島田総務係長

会議概要 以下の通り

1 開会、2 町長挨拶

町長：教育委員のみなさまのおかげで、本町の教育改革が進み、子どもたちの表情も変わってきたように実感しております。特にニセコ高校については全国から注目が集まっている状況で、委員のみなさまに感謝申し上げます。本日は、ニセコ町教育大綱において私が気になる点についての議論と、第6次総合計画が策定されましたので、その中の教育に係る項目について、意見交換ができればと思っております。他に、みなさまから何かありましたら、ご意見頂戴いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

（1）教育大綱（2016.3）の実施状況について

町長：みなさまもすでにご承知のことと思いますが、ニセコ町では2016年3月に「教育大綱」を策定しております。その中でも、「環境モデル都市」としての環境教育の推進、及び長年の懸案事項であった学校施設のいわゆる「エコスクール化」の進捗状況、3つ目に高齢者の活用なども含めた「人材バンク」の創設について、みなさまと意見のすり合わせを行いたいと思います。まずは、教育委員会から進捗状況について情報提供をお願いいたします。

教育長：まず、教育大綱の全体概要について私からご説明させていただきます。町長もおっしゃったように、ニセコ町教育大綱については2016年3月に策定しております。現在、北海道教育大綱の見直しがかかけられ、この4月から新たな大綱が策定される予定となっております。また当町においても、第6次総合計画といった関連計画の策定を受け、教育大綱の見直しを図っているところです。今後約10年のニセコ町の教育の在り様について定めていくものとなります。国の学習指導要領についても令和2年度に改訂されてから5年が経ち、次の改訂に向けての動きが出てくることとなりますので、そういった動きを踏まえて、見直しを図っていくこととなります。またニセコ町教育振興計画についても、併せて見直しを進めているところです。毎年決定

しているニセコ町教育行政執行方針については、昨年度、北海道の教育行政執行方針の大幅な変更をしたことを受け、当町においても道の変更を踏まえ大枠を決定しています。各学校におきましても、それぞれの計画や大綱を意識しながら取り組みを進めていただいておりますが、具体的な取り組みにつきましては、総合教育課長から説明をお願いいたします。

総合教育課長：それでは、私からそれぞれの取組状況についてご説明いたします。まず、大綱の基本方向2①『『環境モデル都市』として自然環境や再生可能エネルギーなどを学ぶ地域に根差した環境教育の推進』ですが、今のところ体系化した取り組みはできていない状況であるものの、それぞれの学校の中で、「環境」の項目を意識した取り組みを総合学習の時間などに位置付けて実施いただいております。例えば、小学校での田植え体験や町内ワイナリーでの体験活動、森林学習などがあげられます。幼児センターでは、身近な自然の中で遊ぶということを保育の中で意識して取り組んでいるところです。また現在教員が中心となって動いている「ニセコスタイルの教育」の中でも「ふるさと学習」という項目を大きな柱の一つとして位置づけており、地元の自然環境を学ぶことを中心的な取り組みとして進められております。それから、企画環境課主催の「水生昆虫観察会」や雪森考舎主催の森林イベントには、多くの子どもたちが楽しんで参加しているということを聞いております。次に、基本方向2②「学校施設・設備の整備とエコスクール化の推進」です。教育施設の改修にあたっては、断熱性能や省エネ設備導入に意識を配りながら進めてきたところです。現在ニセコ小学校においては、エアコンの設置と合わせ、校舎への太陽光設備設置に関する調査検討も行っているところです。今後、順次エコスクール化についても取り組んでいく予定です。続いて基本方向3「町の人材バンクを活用した高齢者の生涯学習機会の創設」については、町のリーダーバンクというものがございまして、10年ほど更新が止まっている状況ではありますが、36名ほど登録をいただいている状況です。また学校支援のボランティアについても、22名の方にご登録をいただいております。学校からの要望に応じて、教育委員会から人材リストのなかから適当な方を紹介し、学校活動に関わっていただいております。例えば、琴の学習や着付けの体験、書初めのお手伝いなどでご活躍いただいております。人材バンクについて担当としては、重要であるとは思いますが、学校の求める人材と登録している人材が必ずしもマッチングしないという点で課題を感じており、せっかくご登録いただいている方がいるのに活躍の場を作れない、というケースがありますので、いかに人材をうまく活用していくか、というところを考えていきたいと思っております。

町長：ありがとうございます。エコスクール化の取り組みとして全国的によくあるのは、各教室に電気メーターをつけて使用量を見える化して意識付けを行う、みたいな取り組みがありますが、今後はそういった取り組みについてもご検討いただけたらと思います。また人材バンクについては、企画部局ともうまく連携できればと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

す。教育大綱について、委員のみなさまから何かお気づきの点などございませんか。

(意見なしの声)

ありがとうございます。それでは、教育大綱については以上といたします。

(2) 第6次総合計画(2024.3)の推進について

基本理念「こども未来共創都市ニセコ」

～ニセコ町の美しい景観と自然を未来のこどもたちへ～

基本目標Ⅱ みんなで学び合い、未来につなぐ

Ⅱ－1 地域全体での子育て支援

Ⅱ－2 自然体験活動の充実

Ⅱ－3 英語教育の推進

Ⅱ－4 シビックプライドをはぐくむ新しい高校の改革

Ⅱ－5 スポーツ環境の整備

Ⅱ－6 生涯学習リーダーの育成

町長：ニセコ町では2024年3月に策定された第6次総合計画の内容に基づいて、さまざまな施策が進められていくこととなります。基本理念については「『こども未来共創都市ニセコ』～ニセコ町の美しい景観と自然を未来のこどもたちへ～」ということで、審議会の中で「景観」や「自然保護」に関する意見が強く出たため、それを受けて当町では景観ガイドラインの策定等も進められたのですが、これらの意見を踏まえて基本理念に反映しております。お配りした総合計画の3ページ目に、これまでの総合計画の経過について掲載されております。現在の総合計画は、ユニセフ等の子どもの人権、子どもにやさしいまちづくり、また町内アンケートの結果なども踏まえ、子どもに特化したまちづくりが必要だということで、基本理念を決定いたしました。総合計画の28ページからは、教育分野の基本目標について記載があります。基本目標Ⅱ－1「地域全体での子育てを支援」については、義務教育の無償化について掲げております。現在全国の中で義務教育の完全無償化をほぼ実現しているのは東京都のみになりますが、将来的にはニセコ町でも取り組んでいきたいと考えております。来年度の4月からは給食費の無償化を実施して、軌道に乗れば条例を制定し、すでに実施している子どもの医療費の無償化と合わせて制度化していきたいと考えております。また教育委員会とも協議をし、将来的には体験学習の参加や副教材の負担など現在一部保護者が負担しているものも無償化していきたいと思っております。基本目標Ⅱ－1について、委員のみなさまから何かご意見ございませんか。

下田委員：ご説明ありがとうございました。義務教育の無償化については非常にありがたい話で、給食費の無償化についてもようやく実現するということが、ありがたく思っております。地域全体という点で言わせていただくと、先日も学校訪問に参加して感じたのが、各学校間の連携だったり、スキー学習だ

ったり、教育活動のための移動手段に課題があると感じております。民間のバス会社では人手不足ということもあって、町バスがあると課題が少しは解消されるのではないかと思います。

越湖委員：バスの人手不足についてニセコ町だけの問題ではないですが、バスの確保を理由にやむを得ずイベントが中止となったものもあり、イベントを楽しみにしている子どもたちのためにも、対策いただけたらと思います。

町長：町バスをなくした経緯として、町で運転手を募集したが人手を確保することができず、丁度車両の切り替えの時期でもあり、当初は民間のバス会社から町に運転手を派遣しようとしたものの、運輸関係の法改正があり派遣ができなくなったため、町バスを諦めて、民間事業者に町バスを担ってもらうこととした経緯があります。ただ現在は民間事業者も運転手不足で町バスを担える人がいなくなってしまうため、非常に不便な状態になってしまっていると感じています。国の支援等を活用すれば、車両を導入することはできますが、運転手がいらないため悩ましいところです。

教育長：保護者からは、特に少年団活動などの移動手段として町バスの要望がでています。

町長：各家庭での移動となると、駐車場が足りなくなり困るという声もあるので必要性は感じています。他の町村でもバスを持っている自治体はかなりありますが、運転手がいらない状況で町バスを導入することは難しい状況です。

越湖委員：運転手がいらない理由としては、業務が賃金に見合わないからということでしょうか。

町長：バス業界全体の賃金体系は低くなっています。特に若い世代では、初任給が安い業界に魅力を感じなくなってしまうようです。町職員として、町で採用するなどの仕組みづくりができると良いですが、解決につながるかは難しいところです。地域おこし協力隊を活用しても人手の確保は厳しいと思います。

越湖委員：地域おこし協力隊は、本人がある程度やりたいことなど目標をもってニセコ町に来ているので、運転手をやりたい人とのマッチングは難しいのではないのでしょうか。

町長：全国的に運転手が不足している状況では非常に難しいと思います。長野県では県外から運転手として移住する人に100万円の補助をしていますが、それでもなかなか人が集まらないと聞いています。そのほかニセコ町では、会社の福利厚生を手厚くするための支援制度を設けており、いくつかの町内事業者が活用しています。

教育長：今後はタクシーの活用も考えられるのではないのでしょうか。他の自治体でも事例はあります。

総合教育課長：小樽市では、部活動の地域移行の取り組みの中で、生徒の活動場所までの移動手段としてタクシーを活用しているというような事例もあります。

町長：冬場はタクシーの台数を増やしてもらっていますが、通年での利用となる

と現状では台数が足りないと思います。

下田委員：アウトドア系の事業者だと登山やラフティングの送迎用に自社のバスを持っているところもあるので、そういった事業者へのアウトソーシングも今後はあり得るかもしれません。

町長：最近では日本版ライドシェアの制度も創設されました。事業主体を町にするか観光協会にするかという課題はありますが、ニセコ町で制度が構築されれば、ドライバーに運転手の登録をしてもらって、ライドシェアをすることができます。将来的には子どもに特化したライドシェアというものも考えられるかもしれません。

こども未来課長：現在運用しているファミリーサポートセンター事業（以下、「ファミサポ」）の中でも、送迎サービスを利用することができます。

越湖委員：ペンションでも、バスを持っている方はいるのではないのでしょうか。

町長：ペンション関係者からは、送迎ができないからデマンドバスを増便してほしいという意見をいただいている。デマンドバスも増便に向けて事業者と協議をしているが、やはり運転手がいなくてということで増やせない状況となっています。ニセコ町は「移動の自由」の確保が本当に実現できていない。冬場のタクシーも、増便してアプリで手配できるようにしていますが、それでも全然足りておらず、1時間待ちになることもある状況です。通年で課題解消できる仕組みを検討していきたいと思います。

町長：ファミサポの状況はいかがでしょう。

こども未来課長：アンケート結果等を通じて、病児保育や一時預かりのニーズは一定程度あることがわかっていますので、来年度の予算でも、ニセコ医院の一部スペースを一時預かり用のスペースとして借上げる予算を計上しているところです。現状はサポーターさんが家庭でお子さんを預かっていますが、長時間の預かりとなると、子どもから目を離せないのがサポーターさんの負担となっていました。一時預かり用にスペースを確保することで、複数のサポーターで子どもを預かることができるので、より長時間の預かりのニーズにも応えやすい体制になります。また病院の中にあるということで、医師や看護師と連携した病児保育の体制づくりも検討しているところです。

巻委員：義務教育の無償化については、できるところから進めていただきたいと思います。昨今の物価高等の影響で、若い子育て世代は特に困っておられると感じます。町の支援が必要だと思います。また、地域全体での支援という点では、町内会などの地域コミュニティとの結びつきを強化できたらという思いがあります。最近は地域コミュニティに入る人自体も減ってはいますが、寿大学とは別の形で、なにか子育てに関われるような仕組みがあると良いのかなと思います。先日幼児センターに見学に行ったときも、ニセコ町では手厚い子育て支援を行っているにも関わらず、もっと親同士でつながりたい、とか、コミュニケーションを取りたい、といった保護者からの強い意見があることを感じました。ファミサポを含め、気軽に参加できるコミュニティがあると良いのではないかと思います。

もう一つ、予算について町で借金を作って将来の若い世代の負担にならないのか気になりました。

町長：町の借金というのは、いわゆる都市部での借金の仕組みとまったく違って、過疎債と辺地債というものを活用しています。例えば、辺地債を活用すると国から元金の8割の支援が入るので、町の負担は実質2割程度となります。過疎債だと国から7割の支援があります。町民から、役場新庁舎を作って将来の子どもに借金を残していると意見をいただくことがありますが、役場庁舎は防災拠点として100年以上にわたって子どもたちも利用する施設であり、建設費用は全体で20億近くかかっていますが、国からの補助金等を活用することで、実質的には5億円程度の負担で施設を整備することができたと考えられます。高校の新寮についても建設費は12億とされていますが、6割は補助金、それ以外は過疎債を活用しますので、実質的な町の負担は1億5千万円程度という計算になります。私たちにとっては、この実負担額が重要で、相当な財政シミュレーションを重ねていますので、ニセコ町の財政状況が厳しくなる、といったことはありません。

千葉委員：義務教育の無償化、病児保育についても、困っている保護者の方が多いので、できるだけ早く取り組んでいただきたいと思います。いつも感じているのは、雨の日に子どもたちが遊べる場所が少なく、小さい子どもだと体育館の遊戯室くらいしかないので、雨の日でも遊べる施設を増やしてもらえたらと思います。冬場に実施しているキッズパークは非常に良かったので、そういった施設が常設になるとうれしいです。また、ちびっこ広場についても、遊具が故障していたり、噴水に汚い水が溜まっていたりしていてあまり良い環境ではないので、整備していただけたらと思います。

町長：冬場のキッズパークは毎日開催にはできないですか。

教育長：開催時は職員を常時配置しているので、予算などの課題がクリアできれば可能だと思います。

こども未来課長：今年は昨年よりも期間を延ばして実施しており、多くの方に来場いただいています。また今までは中央倉庫群で開催していたものを、今年は別のイベントと重複したため有島記念館での開催となりましたが、施設が温かく、トイレやカフェスペース等の設備も充実しているため非常に評判が良いです。

町長：土日の開催のみですか。

こども未来課長：1月の冬休み期間は毎日、それ以外は土日祝日の開催です。毎日開催だと職員の配置に課題があります。

千葉委員：保護者にも協力依頼が来ていて、そういう形でも良いと思いました。

町長：毎日できるのであれば毎日開催できた方が良いでしょう。

教育長：そもそも平日のニーズはどれほどあるのでしょうか。

千葉委員：にぎわっている印象はあります。

越湖委員：不登校の子どもがキッズパークで楽しんで、それをきっかけに学校のスキーに参加したり、学校に通えるようになるといったこともあるのではな

いかと思います。

こども未来課長：キッズパークも含め、子どもの居場所的なところが少しでも増えていくと良いと思います。

教育長：今後も日数や期間を増やしながら開催できるよう検討します。

町長：有島記念館での開催も評判が良いということで、継続してほしいと思います。

こども未来課長：駐車場もいっぱいになるほど来場いただいて、町外から年間パスを購入して通われている方もいました。

町長：ご意見ありがとうございました。続いて、基本目標Ⅱ－２の自然体験活動については現在もさまざま取り組んでいただいているものと思いますが、今後持続させていくためにも、委員のみなさまからご意見があればお願いいたします。

教育長：雪森考舎の森林での体験活動には多くの子どもたちに参加いただいています。

淵野課長：私自身が課題に感じるのは、ニセコ町の子どもたちの自己肯定感が下がっているという点です。子どもたちが何かにチャレンジすることで、その成功体験を自己肯定感につなげたいと思っていますので、それが自然体験活動から生まれれば良いと考えています。今年は数年ぶりに羊蹄山登山イベントも復活させることができましたが、今後も社会教育として体験活動を充実させていきたいと思っています。

町長：昔は４年生がラフティングをしていたと思いますが、現在はどうですか。

下田委員：現在は、５年生が宿泊学習で来ていただいています。登山やラフティングなど、自由参加のイベントにするとなかなか参加しない家庭もあるので、学校行事として強制的に開催していただくことで、子どもたちの体験機会を増やすことにつながると思います。

淵野課長：来年度はどうなるかわからないですが、アンヌプリ登山についてはコミュニティスクールが主催している希望制の登山イベントのほかに、小学校でも学校行事として開催することを検討しているところです。以前のように１年生から６年生まで縦割りで実施することは難しいですが、４年生か５年生ぐらいの学年で、登山の経験をさせたいということで検討中です。

町長：そういった体験学習はなるべく負担なしで参加できると良いと思います。

淵野課長：ＣＳ委員さんや体験先の事業者さんには、ボランティア価格でご協力いただいております。

町長：基本目標Ⅱ－３の英語教育についてはどのような状況でしょうか。

下田委員：ニセコ高校でのワールドビレッジの取り組みが今後もっと加速していくと思うので、そこに小学生や地域の方が気軽に参加できるようになると良いと思います。

越湖委員：放課後こども教室にも国際交流員に来ていただいているのですが、低学年の子どもが多いからなのか、子どもたちが緊張して思うような英語活動ができていないと感じます。京都市の日吉ヶ丘高校での英語村の取り組みのよう

に、多くの人が集まって、自然と英語を発しやすい雰囲気を作ることが入れると良いと思いました。ニセコ高校のワールドビレッジの体制が整った際には、小学生の子どもたちを連れていきたいと思っています。

町長：歌ったり踊ったり、身体を動かしながら学ぶと効果的だと言われています。みんな緊張していると英語を発することができなくなってしまうので、踊ったりしながら自然に英語を発することができるようになると良いですね。

越湖委員：踊りはみんな好きなので、音楽を取り入れたりすると効果があるかもしれない。

町長：ワールドビレッジの教室の改修は進んでいますか。

高校教育係長：教室は今年度末までに完成する予定で、4月から使えるようになります。

町長：4月から国際交流員は高校に常駐するようになりますか。

教育長：国際交流員と協議をしているところです。またALTを1名増員して、ALT2名体制で配置を行います。

町長：制度設計をしっかりと整えて、ぜひ国際交流員の配置を進めてください。JETプログラムはすべて国のお金で配置ができる制度で、奈義町ではこの制度を活用してALTを20名配置しています。ニセコ町でも積極的に活用したいと思っています。

続いて、基本目標Ⅱ－4について、ご意見ございませんか。

下田委員：高校で話を聞くと、さまざまな高校改革に伴い校舎の改修などさまざまな部分でお金がかかっているということです。財源としてふるさと納税で教育にかける資金が集まった際には、高校の裁量で財源の使い道を選択できるよう意見を取り入れてほしいとのことでした。

町長：現状でも教育のために集まったふるさと納税は高校の予算に充てているのではないですか。

高校教育係長：当初予算で納税額を見込んだ上で、校長の意向を基に、必要な部分に財源として充てております。

教育長：当初から財源に組み込むのではなく、生徒の活動など臨機応変な資金としてももう少し自由に使えるようにしたいという意図だと思います。生徒が教育活動や部活動などで外に出ていく機会が多く、旅費等にかかなりお金がかかっています。現状だとその都度補正予算を組んでいるので、もっと自由に使える資金があるとよりスムーズな教育活動につなげることができるのだと思います。今後生徒が増え部活動が盛んになると、ますますそのような予算が必要になってくると思います。

町長：制度設計の問題だと思うので、ぜひ使いやすいような仕組みを検討いただければと思います。

巻委員：ニセコ高校ではものすごいスピードで改革を進めているところですが、町民のみなさんにはどうしても、お金ばかりかかかっていてネガティブな印象を抱いている方もいらっしゃると思います。もうニセコ高校は今までのニセコ高校とは全く新しい高校になっていて、町民のみなさんにもぜひ改革の中身の部

分を知っていただけるように発信できたらと思います。教頭先生もおっしゃっていましたが、遠方から来る生徒の方が、ニセコの良さや高校での目標をしっかり持っていて、地元の生徒はまだ今までのニセコ高校のイメージを払拭できないでいる様子があるので、変えていけたらと思います。

教育長：今年度の成果発表会には、今までにないぐらい多くの方に来場していただき、非常に良かったです。発表会に町民のみなさんに足を運んでいただければご理解いただけたと思いますが、自発的に来ていただかなければそうした機会がなく、いくら学校が素晴らしい取り組みをしても伝わらないという現状です。発信の仕方に課題を感じます。

町長：若い世代だと学校のSNSなんかを通じて、ニセコ高校の変化を感じていただいていると思いますが、古くからいる方だとどうしても昔からのイメージがあるのでご理解いただくのが難しいのかもしれない。

越湖委員：数年前と比べると、町のイベントにボランティアで来てくれる高校生が増えています。町民の方と生徒が交流できる機会がもっと増えると良いと思います。幼児センターや小学校とももっと交流できると、保護者目線でもイメージが変わっていくのではと思います。

町長：ニセコ高校の進路についてももっとPRした方が良いのではないですか。

教育長：高校へ来る町内事業者からの求人が非常に少なく、今年は4人しか町内の就職がありませんでした。進学者が増えていることもありますが、今後は商工会等とも連携して町内の就職先を広げていくような取り組みも必要に感じています。

副町長：高校での取り組みをさまざまな場所でPRしていくことが大事で、教育委員会だけが頑張ることではないし、町の広報だったり、新聞で取り上げていただくなど、色々な手段を活用して行く必要があります。ニセコ高校に小樽商科大学のサテライトを設置して、ニセコにしながら大学を卒業できるとか、その取り組みに地元企業が賛同してさまざまな支援をいただいているとか、とても素晴らしい取り組みなのに、全然知られていない現状があります。ほかにも起業家教育だったり、グローバル人材の育成だったりといった素晴らしい取り組みをもっともっと告知して、知っていく機会があれば、町民のみなさんの考え方も変わっていくのではないかと思います。

町長：地域のみなさんには、町に高校がある価値というのがなかなか見えづらいと思います。他の自治体の首長同士で集まると、町から高校をなくして失敗したと思っている自治体も多いのですが、住民のみなさんにはそれが伝わりづらい。財政シミュレーションをしていると、町に高校があることによる経済効果が非常に大きいことがわかります。どこかの機会で、町民のみなさんにも高校の価値というものをわかっていただけるよう説明していく必要があると感じました。

続いて、基本目標Ⅱ－5について、ご意見ございませんか。

越湖委員：スキーのリフト料金が高騰していて、気軽にスキー場に行けなくなってしまっているという状況になっています。特に低学年のお子さんを持つ家

庭では保護者が一緒に行かなければならず、困っている家庭が多いです。子どもへの支援だけでは保護者の付き添いにお金がかかってしまうので、もう少し支援が必要だと感じます。

巻委員：クロスカントリーの練習場所が常設できないかと考えています。大きな場所ではなくていいので、町民の方が気軽にクロスカントリーをできる場所があると嬉しいです。少年団の子たちは町内に練習場所がないので毎回倶知安のコースで練習しています。毎回通える人は良いかもしれませんが、ちょっとクロスカントリーを経験してみたい人にとっては非常にハードルが高いため、ちょっとした施設でよいのであると良いと思います。

総合教育課長：近藤小学校では毎年コースを作ってクロスカントリーをしています。クロスカントリー経験のある地域おこし協力隊の方もコースの設置については検討されていて、運動公園の野球場の周りにコースを作れないかという話も上がっています。ただし、維持管理面で課題が残るので、検討しているところです。

教育長：あとは、冬になると日が短くなるので、照明設備が必要になります。

巻委員：過去には、発電機を用意して、照明を付けてやっていたこともあります。その時は地域の方が協力して毎日モビルに乗っていたので、やはり人手の確保が必要だと思います。

教育長：一人で運用していくのは無理なので、協力いただける方が複数いると、組織として動けると思います。そういった意味では、部活動の地域移行の動きも進んでいますので、地域のスポーツ活動を全体で支えていくような仕組みづくりが必要になります。最近だと宮田地区でスケートボードも盛んにおこなわれています。

町長：地域おこし協力隊で少年団活動の担い手として募集するのはどうでしょう。

淵野課長：かつての協力隊の中にも少年団活動に協力いただいていた方もいました。いずれにしても1人では厳しいので、何名か協力いただける方がいればと思います。

町長：必要であれば、地域おこし協力隊から集落支援員に移行して引き続き地域活動を続けていくこともできます。そうすれば生活は担保できるので、地域のスポーツ活動に協力いただける人材にお願いするという手もあります。

教育長：地域おこし協力隊は積極的に活用していきたいと思います。

町長：コースの常設に向けて、何か良い方法があれば積極的に進めてください。あとは、まだ検討段階ではありますが、地熱を活用した通年型のプールを検討しています。並行してアスレチックなど子どもの遊び場も設置したいと考えています。今年は環境省の100%補助を受けて、地熱調査のための設計費用を予算に計上しており、うまくいけば令和9年度にボーリング調査を行う予定です。そこで地熱が取れるようであれば、通年型のプールとして整備したいと考えているところです。町民の生活の豊さにつなげられるよう、国の制度を最大限活用して進めていきたいと考えています。

下田委員：全町スキー大会を以前と同じ規模で開催するのはもう厳しいと思いま

す。ただ、スキーの町であるということで、スキーをもっと気軽に楽しめるよう、小規模でも良いのでスキーの体験機会を整備をしていく必要があると考えています。また、スポーツに限らず、不登校の児童生徒が増えている中で、多様な学びの機会を作ってあげることも必要と思っています。

町長：現状の全町スキー大会の規模だと15台のバスを手配する必要がありそれが難しいということですが、札幌などの会社にお問い合わせをすれば手配できますか。

総合教育課長：不可能ではないと思いますが、相当な費用がかかってくるので、あまり現実的ではないと思います。

町長：スクールバス4台を活用して分割して送迎するなどはできないですか。

総合教育課長：全町スキー大会の現状課題として、バスの問題だけでなく、競技形式での開催方法に対するご意見もいただいております。現在は希望者のみが競技に参加し、その他の子は自由にスキーを滑るような形をとっています。しかし実際に競技に参加しているのは全体の3分の1程度となっており、そのような状況の中で、子どもたちのやりたいことや学校の目指す教育方針とスキー大会の形式がマッチしていないといった課題がありましたので、大会の開催方法についても検討していく必要があります。

町長：アルペン形式も残しつつ、雪中運動会のような楽しめるイベントも用意できると良いと思います。

下田委員：スキーが嫌いで、スキー授業の日は学校を休むといった子も実際にいます。先日、スノーラフティングに協力したときは、スキーが嫌いな子にも好評でしたので、キッズパークの屋外版のような形で、ラフティングやそり滑りで遊べるような場所があると良いと思います。スノーボードも良いと思います。

越湖委員：子どもたちに話を聞いていても、休みの日にスノーボードをやっている子どもは多いです。学校でもスキーとスノーボードを選択できるようになれば、多様性につながると思います。

総合教育課長：役場職員も以前は当たり前に関心を持っていましたが、今ではスキーをやらない人も多く、スキーの滑れる運営の人手確保も難しくなっています。

巻委員：ポールをくぐって滑ることに抵抗がある人もいますが、ニセコだからこそポールにくぐれるという強みもあると思います。スキー連盟の方にポールを設置していただいていると思いますが、単にタイムを競うのではなく、初心者でも簡単にポールをくぐって楽しめるような、そういったイベントにしてもらえたらと思います。

町長：開催方法などについては工夫していただいて、スポーツの振興につながるように検討していきましょう。

続いて、基本目標Ⅱ－6について、生涯学習を充実させていくためには、リーダーバンクのようなものを設置して人材を確保していくということのほか、町で費用を負担してプロフェッショナルな人材を核として設置するこ

とも必要だと考えています。委員のみなさんからご意見ございませんか。

総合教育課長：リーダーバンクについては先ほど申し上げた通りで、担当が情報として人材を把握しておく必要はありますが、全体に公開して活用していくには課題があるので、人材をどう活用していくかについて検討していく必要があると思います。

教育長：学校からも人材を紹介してほしいという声があり、バンクを充実させたいという思いがありながらも、公開にあたっては登録者本人の意向もありますし、誰にでもむやみにアクセスされるのもよくないということで、慎重に検討する必要があります。またスポーツだけでなく、文化系の活動についても含めて整理していきたいと考えています。

町長：ご意見ありがとうございます。さまざまな課題があると思いますが、解決に向けて少しずつ取り組んでいけたらと思います。第6次総合計画については以上とさせていただきます。

（３）現状の教育における課題、解決手法ほか教育委員からの意見

下田委員：今年度、学校教育課と町民学習課が総合教育課に統合され、管理職の負担増が気になります。今はなんとか成り立っている状況ではあると思いますが、今後人事異動で職員が交代した時のことなどを考えると、ぜひ手厚い職員配置をお願いしたいです。

町長：課の統合については、学校教育分野も生涯学習分野も本来は一体的に取り組んでいくべきものという思いがあり、総合教育課を創設しました。今後の方針としては部署を分散させていくのではなく、どんどん統合させ、大枠で物事を見ていくことで、縦割り意識を取っ払いまちづくりをデザインしていくことができると考えています。適切な人材配置については今後も検討していきます。

町長：学校給食の状況についてはいかがですか。

学校給食センター長：先ほども、義務教育の無償化について話がありましたが、給食費の無償化についても来年度に向けて進めているところです。給食費の無償化は再来年度以降も継続という方向でよろしいですか。

町長：継続していく方向です。現在継続して取り組んでいる子育て事業として子ども医療費の無償化があります。事業を継続させるためには条例を制定して制度化していく必要がありますので、給食費無償化についても来年度の実施状況を鑑みながら制度化に向けて進めていきたいと考えています。しっかり制度化していくためには、現在給食を提供していない子どもの扱いをどうするかなど、ある程度公平性を担保しつつ制度設計をしていく必要があります。来年１年かけて、整理していく予定です。今後、給食センターの容量オーバーでニセコ高校への給食提供ができなくなってしまうます。給食センターは、現在の文科省の施設基準では認可されない広さとなっています。建設当時は、財政的な面などから最低限の面積で施設を作るムードがあり、給食センターだけでなく、幼児センターやこども館なども面積を減らして建設しました。

その結果億単位のお金をかけて幼児センターの増設などを行っています。給食センターも増設すると同様にお金がかかると思います。悩ましい問題は、広さが足りなくてアレルギー対応ができない点です。今後の給食提供の在り方についても、この1年をかけて皆さんと協議していきたいと思っています。

越湖委員：不登校の子どもが増えてきており、そうした子たちも利用できるような施設があればと思います。新築とは言いませんので、子どもたちの居場所として使えるスペースがあれば、ぜひお願いします。先日、保健福祉課主催の認知症セミナーに参加したのですが、認知症の方にとって、できないことをサポートしてあげることが大切で、大人だけでなく子どもたちもサポーターとして配慮していく必要であることを話していました。地域でも支援が必要な方がいると思うので、子どもから大人まで、みんなで集ってお茶でもしながら会話ができるような、気軽に行ける居場所的なところがあると良いのではないのでしょうか。私自身関わっている放課後子ども教室は、子どもたちに居場所として感じてもらえるように頑張っているつもりですが、それだけではなくて、さまざまな世代の方にとっての居場所があると良いと感じています。

町長：イメージとしては、どのような施設を考えられていますか。地域に集会所は設置しています。

越湖委員：集会所には人がだれもいないので、どなたか見守れる人が常駐していてほしいです。

町長：ニセコ中央倉庫群の旧でんぷん倉庫には、スタッフが常駐していてみなさんの居場所に整備をしました。整備当初は利用のルールが厳しくて子育て家庭の方には使いづらかったかもしれませんが、今は誰でも利用ができるようにしています。2階の部屋はほとんど使っていないので活用できないでしょうか。今ある施設でできれば良いと思います。

越湖委員：以前から、児童館のような施設がほしいという話をしていますが、そういった施設と共有できれば良いなと思います。中央倉庫群はイベントの際には良いですが、もう少し子ども達が学校帰りにも利用しやすい場所にあると嬉しいです。

町長：町民グラウンドに建設中の新団地に併設予定の支援施設はどうでしょうか。事務所も設置しているので、今後放課後子ども教室も含めた居場所として活用していくのも良いかもしれません。

副町長：ハコがあればいい、という話ではないのだと思いますが、例えば、あそぶくには職員も常駐していて椅子やテーブルもあってお茶ぐらいなら飲むことができますと思いますが、そこは居場所にはならないですか。

越湖委員：来た人たちを受け入れてくれる支援団体が必要ではないかと思います。あそぶくだと、職員の本来の業務に支障をきたしてしまうので、長時間居る人に対応し続けるというのは難しいのではないかと思います。

副町長：どのようなニーズへの支援を求めているのかをもう少し具体的に確かめたいです。例えば子ども食堂のようなイメージですか。

越湖委員：子ども食堂のようなこともできると良いと思います。子ども食堂は現在も町民センターで不定期に開催していますが、居場所的な施設があつてそこにキッチンが設置されていれば、子ども食堂もより定期的に開催できると思います。

町長：公民館的なイメージでしょうか。堅苦しくなく気軽に出入りできて、部屋には麻雀卓や囲碁があつて、子どもも遊べるような施設があると良いですね。岡山県奈義町におっしゃるような施設があり、以前視察した時にとっても良いと思いました。すごく良いので委員のみなさんも一度見に行かれると良いと思います。

教育長：先進事例を見て参考にすることは大事だと思います。機会があれば視察に行ってみたいです。

町長：自由に行つて自由に過ごせる場所というのは確かに良いと思います。新しく建物も建つので、ぜひ、そうした場所としての活用の可能性について考えてみてください。

越湖委員：本当はもう少し学校に近い場所の方が嬉しいとは思いますが。

町長：場所については検討します。

巻委員：給食の無償化の話があり、非常にありがたいと思うのと同時に、ニセコの給食はおいしいので質を落とさないようにしていただきたいと思います。現在も地産地消の取り組みで地元の食材を使っていると思いますが、それに加えて減農薬・無農薬の食材を使うとか、より一層質の良い食材を使って、ニセコ町の給食が全国的にも質の高い給食になればとても良いと思います。

学校給食センター長：お米についてはYESクリーンの基準で減農薬のものを仕入れています。他の野菜についても直接農家さんから買っているものもありますが、農家さんが給食用に作ってくれているものなので、自主的に減農薬で栽培してくださっています。無農薬にするには相当ハードルが高いと思いますが、全国ではオーガニック給食に取り組んでいる自治体もあるので、先進事例の取り組みについて今後の参考にします。

千葉委員：スキーフエスティバルの話が先ほどありましたが、子どもたちはお友達同士みんなでスキーに行けることが好きなので、保護者がスキー場に連れていくのも良いですが、子どもたちがみんなでスキーを楽しめる機会を作っていただけるとありがたいです。バスで送迎までするのは難しいかもしれませんが、みんなで集まれる機会だけでも作っていただけると嬉しいです。スキー券についても現在割引がありますが、1日券だけだと少し長すぎるので、4時間券などの短い時間券で割引していただけるとより助かります。またもう少しスキー場に行く家庭だと、シーズン券の割引がほしい、といった声もあります。

町長：確かに、スキー場へ連れていく保護者の負担は大きいと思います。共通券の30時間券の販売がなくなってしまい、町民用に30時間券を販売してほしいとのご意見をいただいたこともあります。海外のリゾート地では、二重価格の設定や住民割引など普通にやっていることなので、将来的にはニセコ

でも町民価格の設定など交渉していくことになると思います。今は支払いのデジタル化も進んでおり、町民限定の記名式カードを提示すれば地域通貨として使えるポイントを付与できるような仕組みについても考えています。

4 閉会

町長：本日は貴重なご意見ありがとうございました。今後とも委員のみなさまと協議を重ねながらできる限りのことを取り組んでまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。